

くわの怒った話

小川未明

青空文庫

あるところに、性質のちがった兄と弟がありました。父親

は死ぬときに、自分の持っている圍を二人に分けてやりました。

兄はどちらかといえ、臆病で、働くことのきらいな人

間でありましたが、弟は、どうかして自分の力で働いて、でき

るだけの仕事をしたいものだ、日ごろから思っていました。

いよいよ父親がなくなってしまうと、二人は、これから

自分で働いて、生活をしなければならなくなりました。あると

きのこと、弟は兄に向かつて、

「兄さん、私は、お父さんが分けてくださった圍を売って、その

金を持って旅に出て、なにか仕事をして働きたいと思いますが、

兄にいさんはどうなさいますか。」といいました。

兄あには、黙だまって考かんがえていました。

「どうするって、俺おれには、べつにいい考かんがえがないから、当とう分ぶんこ
うしているよりしかたがない。おまえは、かつてにするがいいが、
その金かねをなくしてしまつたら、どうするつもりだ。」と、兄あにはい
いました。

「兄にいさん、私わたしは、とにかく思おもつたことをやつてみます。そして、
その金かねをなくしてしまつたらまた働はたらいて、体からだをもとでに、つづく
かぎりやつてみます。」と、弟おとうとは答こたえました。

弟おとうとは、ほどなく、その自じ分ぶんに分わけてもらつた土とち地ちを売うり払はらつて、
旅たびへ出でかけてゆきました。その後あとに残のこつた兄あには、圍はたけに出でてくわを

取つて働いていましたはたらが、もとから働くことが好きでありませんから、たいていは怠なまけて家うちにいました。そして、困こまつたときは、道具どうぐなどを片端かたはしから売うつて食たべていました。「運うんは寝ねて待まて。」ということわざがあるから、きつと、そのうちにいいことがまわつてくるにちがいないと、兄あには信しんじきつていたのです。

その年としも暮くれ、翌あくる年としになると、不思議ふしぎに運うんがめぐつてきました。汽車きしゃがこの村むらを通とおつて、停てい車しや場じやうが近ちかくに建たつといううわさがたつと、急きゆうにあたりが景けい気きづきました。そして、他所よそからいろいろな人にんげん間げんがたくさんに入り込いんできて、土地とちの価ねが一いち時にじずつと上あがり、兄あにの持もつていいる場ばしよ所じよは、その中うちでも町まちの目めぬ

きのところとなりましてので、いちばん高く売れるのでありまして。

「それ見よ、俺のいわないことじゃない。なんでもあせると、弟のやつみたいに損をするものだ。昔から、運は寝て待てというから、冒険などをするものじゃない。おれの土地などは、買ひ人が山ほどある。こつちの価の付け放題じゃないか。」と、兄は得意になつて独語をもらしました。

いよいよ、兄の持つてゐる土地が高い価で売れることにきまると、兄は、その日を最後として圃をみまいました。

「ああ、いやないやなくわ仕事も、今日かぎりでしなくていいことになつた。これから、町にりつぱな店を出して、その帳場に

すわれればいいのだ。仕事しごとはみな奉公人ほうこうにんがしてくれるし、金かねは銀ぎん行こうに預あずけておけば、利子りしに利りがついて、ますます財産ざいさんが殖ふえるといふものだ。もうこんなくわなどを使うつかことはあるまい。まったく不要ふようなものだ。」と兄あにはいつて、永年ながねん自分の手てに握にぎつてきたくわを、地面じめんにたたきつけるように投げ出なしました。すると、くわは、ひっくりかえつて、さもうらめしそうな顔かおつきをして、兄あにをながめました。

「なんで、そんないやな顔かおをして、俺おれをにらむんだい。もうおまえの世話せわになどなりはしない。俺おれは明日あすから旦那だんなさまだ。おまえは、俺おれを見みたくつても、いままでのように容易よういに見みられはしないのだぞ。」と、兄あにはあざわらつて、くわをののしりました。

それから、幾日かたつてから、兄は、町にりつぱな商店を出しました。そして、そのの帳場にすわつて、多くの奉公人を使う身分となりました。

彼は、まったくの幸福者となつたのであります。ある日、帳場にすわつて、兄は、煙草をふかしながら、外の往來をぼんやりとながめていました。路の上には、重い荷を載せて停車場にゆく車がつづいていました。また、停車場からほかへ運んでゆく車などで、終日織るがように見られたのであります。

そのとき、ふと、彼は、いましも重い荷を車に付けて、店の前を通つて停車場へゆきつつある、弟の姿を認めたのでありま

した。

「弟じやないか。弟のやつめ車引になつてしまいやがった。あんな大きな口をきいていたが、あのざまはなんということだ。それにしても、俺がこんなにいま、金持ちになつて、ここに店を出していることを、知らぬはずはないだろう。いや、まだ知らないのかしらん。」と、兄は独語をもらしましたが、弟の耳に聞こえるように、大きなせきばらいをいたしました。

下を向いて、重い荷物を車に付けて引いていました弟は、こちらを振り向きしました。そして兄と顔を合わせますと、車のかじ棒を地に下ろして、店先へやつてきました。

「兄さん、しばらくでございます。」と、弟はいつて、頭を下げ

ました。

「おまえは、なんというようすをしている。あのとき俺おれのように、じつとしておちついていたなら、おまえもいまごろ金持ちかねもになっているもの、いまとなつてはとりかえしがつかないじゃないか。」と、兄あには、さげすんだ調子ちようしでいいました。

「兄にいさん、なにが幸福しあわせになり、なにが不幸ふしあわせになるか、わかつたものでありません。あれから私わたしは、事業じぎようを起おこして失敗しっぱいしました。いまは、自分じぶんの腕うでひとつを頼たよりに生活せいかつをしています、そのほうが、どれほど安心あんしんであるかしれません。」と、弟おとうとは、すこしも兄あにの金持ちかねもになつたのを、うらやむようすもなく答こたえませんでした。

「なにをばかなことをいうのだ。そんな生活せいかつで、おまえはいいと思うおものか。」と、兄あには笑わらいました。

「兄にいさん、どうぞ私わたしのことはかまわんでください。そして、あなたは幸福こうふくにお暮くらしてください。」といつて、弟おとうとは、暇いとまつを告つげて、また重おもい車くるまを引ひいてゆきました。

兄あには、弟おとうとの姿すがたを見送みおくつて、「どこまで、あいつは、負まけ惜おしみが強つよいのか？」といつて、笑わらつたのであります。

兄あには、それから、毎まい日にち愉ゆ快かいに遊あそぶことばかり考かんえて、おもしろうい日ひを送おくっていました。しかるに、不ふ意いに、思おもいがけない災さい難なんに出であいました。それは、兄あにが金かねを預あずけておいた銀ぎん行こうがつぶれて、みんな金かねをなくしてしまつたことでもあります。

ほんとうに兄は、夢かどばかり驚きました。たちまち、昔にまさる貧乏なものとならなければならなくなりました。

「なにが幸福になり、なにが不幸福になるか、わかるものありません。」といった弟の言葉が、いまさら兄の頭の中に浮かんできました。

ある日、兄が思案に沈んで、外をながめていますと、弟が、いつものように重い荷を車に積んで通りかかりました。兄は、いいところへ弟がきたと思つて、さつそく弟を呼び入れました。そして、事の次第を弟に語つたのであります。

「いま、おまえのいったことがよくわかつた。おれも自分の力で働く気が起こつた。どうか俺を助けてくれ。」と、弟に頼みまし

た。

このとき、弟は、じつと兄の顔を見つめていました。そして、いいました。

「兄さん、そう、あなたがお考えになつたら、だれにも頼らずに、ひとりで自分の力でできる仕事をやりなさい。」と、冷ややかにいきました。

「俺は、おまえのように車が引けるだろうか。」と、兄は、おどおどしながら弟に問いました。

「そこに、私の引いてきた車がありますから、ひとつ引いてごらんなさい。」と、弟は、厳かにいいました。

兄は、重い荷物の積んである車を引いてみました。けれど、ち

つとも動きません。

「これはだめだ。とても俺には引けない。」と、兄は両腕の痛むのをさすりながら、いいました。

「兄さん、あなたは昔、くわをお持ちになったのですから、そういう仕事を私が探してきます。」と、弟はいつて、その日は立ち去りました。

その後で、兄は、物置き小舎にゆきました。そして、まったく忘れていた、昔、地面にたたきつけたくわを、うす暗い中から探り出しました。

「ああ、ここにあった。明日からこれを持って働こう。」と兄は、くわに、あらためて手をかけようとし、くわは、ものすこ

い白目しろめで兄あにをにらみました。兄あには、当時とうじ、くわをののしっていったことを思い出しおもました。

「ああ、自分じぶんが悪わるかった。みんな考かんえていたことがまちがっていたのだ。」と、心こころの中なかでわびて、くわに手てをかけて、それを振り上げようとしたが、

「ばかにするな。」と、くわはいつて持ち上もがりませんでした。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 一」講談社

1976（昭和51）年11月10日第1刷

1977（昭和52）年C第3刷

※表題は底本では、「くわの怒《おこ》った話《はなし》」となつています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：江村秀之

2013年9月23日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

くわの怒った話

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>